



横浜

第15回 瀬谷かるた大会

瀬谷区青少年指導員連絡協議会 編集委員長 菅野 広章

瀬谷区青少年指導員連絡協議会は、現在12地区から選ばれた青少年指導員の計149名で構成され、活動しています。

当協議会では、毎年1月に「瀬谷かるた大会」を開催しています。参加対象者は小学生です。参加者は同学年3人のチームでエントリーし、学年ごとにチーム戦を行い、順位を決めます。

使用するかるたは、「瀬谷歴史かるた」。瀬谷区の歴史や地名、民話を題材に作られており、かるたを通して瀬谷区を知ることができます。札の読み手は、例年、朗読ボランティアの「風の会」にご協力をいただいています。

昨年度の「第15回 瀬谷かるた大会」は、平成31年1月27日(日)に瀬谷センター体育館において、瀬谷区制50周年記念イベントの一つとして開催され、参加者は120人(40チーム)で熱い戦いが繰り広げられました。参加者が決めるユニークなチーム名、お揃いのユニフォームやバンダナで団結するチーム、それを応援する保護者の皆さん。熱気・やる気・元気がいっぱいのかるた大会でした。

大会の最後には表彰式が行われ、区長より表彰状・メダルが贈られました。負けてしまった子どもたちからは、「来年こそは自分たちがもらうぞ!」という声が聞こえてくるほど、悔しさにあふれていました。

「瀬谷かるた大会」は私たち青少年指導員にとっても、一年に一度、瀬谷区の歴史を振り返る大切な行事となっています。これからもこのイベントを通して、子どもたちとともに瀬谷区を盛り上げていきたいと思います。



元気いっぱい! かるた大会

地域活



県央

青龍祭と青少年指導員と子どもたちとのふれあい

清川村青少年指導員連絡協議会 会長 岩澤 正信

清川村は水と緑あふれる県内唯一の村です。

清川村の青少年指導員は小学校2校2名の先生と村民の7名、計9名で活動しています。

主な活動は小中学校訪問、村の夏祭り「青龍祭」、青龍祭に飾る「ぬり絵ちょうちん作り」、龍の製作、青龍パレードへの参加、親子ふれあい事業、村内の愛のパトロール等を行っています。「ぬり絵ちょうちん作り」は青少年指導員が主となり児童、親、先生たちで製作します。

今回は村の夏祭り「青龍祭」についてお話してみたいと思います。



ぬり絵ちょうちんを展示する様子

清川村で行われている青龍祭はもともと煤ヶ谷地区で江戸時代後期から昭和の初期に行われていた雨乞いの事業の様子を再現したものです。

この雨乞いの龍

の行事は、昭和の初めに一度は途絶えてしまいましたが、昭和61年に復元され、現在、清川村の伝統行事として守り継がれています。

青龍祭の龍には、雄龍、雌龍2頭の龍がいて、この龍は、竹やカヤ、わらなどで作られています。この2頭の龍は約20mあり、小学校の体育館から運び出し、入魂式を終え、小学生や中学生が龍を担いで青龍祭会場に向かって出発します。パレードの休憩場所などでは青龍太鼓の演奏でパレードを盛り上げています。

青龍祭会場では、親子で製作した「ぬり絵ちょうちん」を飾り、ちょうちんの中には電球を入れてお祭りを盛り立てます。また、青少年指導員と中学生ボランティアによるゲームコーナーやうちわ作りを行っています。青龍祭本祭ではアトラクションや青龍太鼓の演奏で盛り上げ、最後に龍を燃やし打ち上げ花火で閉幕となります。

青龍祭が終わってから、指導員、駐在所の警察の方と会場周辺をパトロールして解散となります。

少ない人数ですが、これからも青少年と村民で協力しながら活動していきたいと思います。